小平 美智雄
（市民連合）

二次救急医療体制の質の確保を

問 市では、初期救急医療の充実・強化をはじめ、二次救急医療における体制の充実・強化、良質かつ適切な医療体制の確保に取り組んでいるが、現場の状況はまだまだ満足できる状況ではない。

病院群輪番制病院と協力病院などの連携を強化すると共に、医師の確保、特に高度医療が可能な専門医の育成・確保などの「質の確保」も重要であると考えるが、市としての対策は。

答 初期救急医療では、市医師会などと連携し、市夜間休日救急診療所に小児科専門医を確保し、二次救急医療では、人件費を含めた運営費を補助し、病院群輪番制病院や協力病院などにおける、整形外科医などの高度な専門的医療を提供する医師など、必要な医療従事者の確保に取り組んでいる。

さらに、二次救急医療から、県が所管する、より高度で特殊な専門医を有し、広域的に医療サービスを提供する三次救急医療へ円滑につなげられるよう、宇都宮市救急医療対策連絡協議会において、県内5か所の三次救急医療機関との連携を含め、適切な医療の提供を確保するため、継続的に二次救急医療体制の評価・検証・見直しを行い、体制の充実を図っている。

その他の質問項目
①ネットワーク型コンパクトシティ ②公共交通ネットワークの再編 ③予防接種法の改正及び予防接種の充実 ④こども医療費助成制度の拡充 ⑤公園の健康利用 ⑥公文書館の整備 ⑦大規模スポーツイベントの誘致

渡辺 通子
（公明党）

緊急情報ネックレスを使った認知症行方不明者対策を

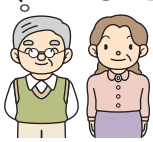
問 認知症行方不明者の対策として、市では、GPS端末機の貸与事業を行っているが、持ち歩きづらいことや登録料などがかかることから、25年度の利用実績は7人と極めて低い状況である。

鈴鹿市で取り組む緊急情報ネックレス事業は、災害時や外出中に倒れたり、徘徊（はいかい）中に見つかった場合に、ネックレスに記された識別番号から、氏名・緊急連絡先などの本人確認や、持病やかかりつけ医などの医療情報を把握し、迅速な救急対応ができるシステムで、ネックレスは、肌に優しいシリコン製で、おしゃれなデザインであり大変好評と聞いている。

市でも、このシステムを研究し、早急に体制を確立のうえ、導入すべきではと考えるがどうか。

答 緊急情報ネックレス事業については、認知症の方の支援に繋がる施策の一つであるが、本人確認が容易にできるなどのメリットがある一方で、身につけているものは本人が嫌がり外してしまうなどの課題もある。

今後、認知症の方やその家族などの意見を十分に伺うとともに、他市の取り組みなども参考にしながら、調査・研究していく。



その他の質問項目
①市長の政治姿勢（通学路の安全対策） ②福祉のまちづくりのみやの構築（公共交通バリアフリー（LRT乗車）体験コーナーの設置ほか） ③子育て支援（子育て支援企業の拡充ほか） ④高齢者見守り対策 ⑤AEDの使用率の向上 ⑥土曜授業の充実 ⑦読書の推進

福田 久美子
（共産党）

子ども・子育て支援新制度に向けた市の対応は

問 27年度から本格実施の子ども・子育て支援新制度について聞く。

①どのような理念に基づき子ども・子育て支援事業計画の策定にあたるのか。

②1歳児については市独自に3対1として保育士の加配をしているが、新制度の下での保育所及び小規模保育でも当然必要と考えるが、見解は。

答 ①新制度への移行にあたっては、子どもの健やかな成長のために適切な環境を確保し、子ども・子育て支援を総合的・計画的に実施するため、教育・保育の量の見込みや提供体制の確保の内容、実施時期を定める「市町村子ども・子育て支援事業計画」を策定することとしている。

市では、その趣旨を十分踏まえ、全ての子どもと子育て世帯に良質かつ適切な教育・保育と必要となる子育て支援事業が提供できるよう、「宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」を策定していく。

②現在、児童の処遇向上のための職員配置や保育士の処遇改善、定期的な研修会の開催など、保育の質を高めるため、市独自の支援を実施しており、新制度でも、保育の質の向上を図るため、今後、適切な職員配置などについて検討していく。

その他の質問項目
①市長の政治姿勢（集団的自衛権、LRTありきのまちづくり、こども医療費助成の対象拡大） ②生活困窮者への支援（生活困窮者自立支援法施行への市の対応ほか） ③高齢者をめぐる問題（介護保険制度改革への対応ほか） ④消費生活相談員の正規雇用化